

Cefmenoxine (CMX) の耳鼻咽喉科組織への 移行に関する検討

石田 稔・荻野 仁・玉置 弘光
松 永 亨*・雑賀 宏**

CMX は新しい世代の注射用セフェム系抗生剤である。われわれは慢性副鼻腔炎、鼻ポリープ、扁桃炎を持つ患者の組織への移行をこの抗生剤 μg , one shot 静注後の変化で追求してみた。正常健康人では one shot 静注後急激に血清中濃度は低下し、1 時間値は 1/10 量にまで減少し、以後ゆっくりしたカーブで漸減していく。

次に慢性副鼻腔炎粘膜への移行をみていくと 30 分値では血清中濃度の 60% 近くの組織への移行をみている。一方、鼻ポリープ群では 34%、扁桃炎群では 32% の濃度比でもって組織への移行をみている。慢性副鼻腔炎粘膜への抗生物質の移行は鼻ポリープ、扁桃炎組織よりもたいへんいいことを示している。

次に慢性副鼻腔炎患者の組織移行を経時的に追求してみた。血清中濃度は 1 時間までは急激に低下していくが一方組織移行は漸増し、1 時間でもっとも高いピークをもち、血清中濃度を越える。この組織移行が血清中濃度より高値を示すのは静注後 2 時間 30 分まで続き以後漸減していくのがわかる。CMX の静注後約 1 時間 30 分以上 $15 \mu\text{g}/\text{ml}$ 程度組織内濃度を維持しており臨床分離株の 80% 阻止濃度の MIC を充分カバー出来る。

以上の如く慢性副鼻腔炎粘膜へは扁桃組織よりも抗生物質の移行がよく、副鼻腔炎の保存療法としては充分使え得ると考える。しかし副鼻腔内の貯留液などが存在する時やはり排膿などでまず除いておいてから、抗生剤を直接副鼻腔へ注入してやることの方がよりよく細菌に作用させうるものと考ええる。

質 疑 応 答

三辺 (関東通信) 血清濃度と組織濃度の関係を 30 分, 1, 2, 3 時間と詳しく検討したことは興味ある所見である。その採取法は同一患者について採取したものか否かをただした。

石田 (大阪大) 採取時間が 30 分, 1 時間と経時的な変化をみる時、同一患者で出来るだけ採取した。

岩沢 (札幌通信) bioassay 時の標準曲線の作製時に標準品の希釈は buffer か、血清によつたか、またその差異はいかが。

石田 bioassay 時の標準曲線の作製時、どのような buffer かは自分自身のデーターとして今もっていないのでお答え出来ません。

藤巻 (順天堂大) 1) 副鼻腔粘膜は一回何グラム程度採取したか、また、血液の除去はどの程度行つたのか。

2) 検体の保存は何度 C にて行つたか。

石田 1) ガーゼにて血液を除いた。

2) 検体は -20°C で凍結保存した。

内藤 (名保衛大) 副鼻腔粘膜の性状と移行濃度との関係はどうか。

石田 1) 副鼻腔粘膜の性状を分けて、その移行濃度をみていない。今後、線維型、浮腫型とかわけていきたい。

* 大阪大学医学部耳鼻咽喉科学教室

** 富田林病院耳鼻咽喉科